

玉垂



「キビタキ」

宮川の新緑（平成26年4月21日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

初夏の輝きと共に

本年四月の例祭及び諸祭事は恙なく斎行いたしました。当社では春の例祭を無事に修めますと、境内が一斉に初夏の色彩を帯びてまいります。特に境内を南北に流れる宮川沿いには約七〇〇本のモミジが植られております。光に照らされたモミジの若葉は大変清々しく、木々の緑が笑っているようで自然の力強い生命力を感じます。森林浴には精神的な安らぎをもたらすことは広く知られていますが、科学的な効能として樹木が発散する天然物質により、免疫力の向上を同時にもたらすという研究結果もあるそうです。昨年から当社の新緑から紅葉までの季節をお楽しみ頂きますようにと、「明神通り」にお店を構えます「久米吉」が四月下旬より宮川沿いに「宮川棧敷」をオープンいたしました。ご参拝の折、御神域の緑に身も心も包まれながらの休息は日々の煩雑さから解放され、新たな活力が湧いてくるものと存じます。

さて、去る三月二十九日地元森町には新東名にある森・掛川インターチェンジに引き続き二つ目の玄関口である遠州森町スマートインターチェンジが開通となりました。当社までの道程が約七分と大幅に短縮されましたので、ご参拝の際は是非、ご活用ください。当社といたしましても門前通りの「明神通り振興会」との連携を一段と深め、ご参拝の皆様を心からお迎えすると共に地域の振興に努めてまいりたいと存じます。

ところで、先日地方新聞の投書欄に森町についての記事が掲載されておりました。投稿者の方は森町を訪れた際の印象として、「新旧文化融合の町」と高く評価をされました。この人口二万人程度の小さな町には当社の十二段舞楽を含めまして国指定重要無形民俗文化財の指定を受けた舞楽が三つもあります。この地方にこれだけの伝統芸能が今も継承されているのは、奉仕を続けておられる方々が常に神々を敬う心をもって奉納されてきた証だと存じます。この護り伝える精神と時代を担う若者の感性が融合し、時代に則した伝承活動がさらに継続されることを願っております。

例祭の斎行

四月十七日より二十日までの四日間に亘り、例祭及び諸祭儀・神賑行事が滞りなく執り行われました。

十七日は、午前九時より詠歌を神前に奉告する献詠祭、午前十時より前日祭が執り行われました。

十八日、午前十時よりの例祭は、静岡県神社庁副庁長河村基夫様・原嘉孝様を始め、出雲大社禰宜千家国麿様、森町長村松藤雄様など二〇〇名を越える大勢のご参列を賜り、厳肅且つ盛大裡に斎行いたしました。

十九日の午後二時よりは氏子入り奉



出雲大社禰宜 千家国麿様のご祝辞 (4月18日)



巫女舞の奉納 (4月20日)

告祭が執り行われ、拝殿前の舞殿では国指定重要無形民俗文化財の十二段舞楽が奉奏されました。

二十日午後二時よりの神幸祭（おわたり）は、生憎の天候により雨儀による祭儀となりましたが、勅使役として森町議会議長の榊原淑友様をお招きし、ご奉仕いただきました。

殿内では、可愛らしい衣装を身にまとった稚児行列の皆様も参列され、森町指定無形民俗文化財の巫女舞が奉奏されました。

また、境内では新茶の手揉みの実演・弓道愛好家による大弓会が催され、終日参拝者にて賑わいました。



勅使役の森町議会議長 榊原淑友様 (4月20日)



例祭神賑の雪洞献燈 (4月21日)



舞楽・太平楽の奉奏 (4月19日)



舞楽・稚児の行列 (4月19日)

献茶祭の齋行

四月十六日（水）午前十時三十分より献茶祭を齋行いたしました。毎年四月に行われる献茶祭は、森町で茶業を営む方々により結成された「小國神社献茶会」が国家の安泰と国民の繁栄、茶業の振興を祈り、お茶をご神前に献じたいします。ご神前で煎茶をたて、神饌としてお供えする献茶祭は全国的にも珍しい祭儀です。

本年も森町茶商組合組合長長田辰美様、森町長村松藤雄様をはじめ大勢の皆様のご参列を賜りました。本年の献茶式は煎茶道静風流天野智堂様、守本湖堂様のお点前によりご奉仕をいただきました。



献茶式のお点前 天野智堂様（4月16日）

端午祭の齋行

五月五日（月）の午前十時より端午祭を齋行いたしました。当社で命名いたしましたお子様六十五組とそのご家族皆様にご参列いただき、お子様の無事な成長と無病息災を祈願いたしました。祭典後には御神札と共に柏餅、御神域で育まれた菖蒲、よもぎの葉をお頒ちいたしました。

日本では古くから菖蒲やよもぎは邪気を祓うものとされています。端午の節句は「菖蒲の節句」とも呼ばれ、菖蒲湯に浸かる風習は江戸時代以降定着し、季節の変わり目も健やかに過ごせると言われております。

大神様のご加護を賜り、お子様の健やかなるご成長をお祈りいたします。



参列者に「菖蒲」の授与（5月5日）

本宮山青葉祭の齋行

五月六日、爽やかな新緑の風薫る中、本宮山青葉祭を齋行いたしました。

本宮山とは当社の御祭神「大己貴命」が天降られた地で、標高五一メートルの山頂には奥磐戸神社が鎮齋しています。

午前十一時、社殿を清々しい薫りの黒文字の木で飾り、責任役員様を始め袋井商工会議所専務理事鈴木満明様、氏子崇敬者七十余名のご参列のもと、青葉祭は厳粛に齋行となりました。

祭典後、本宮山御神札と徹下品をお頒ちし、直会は遠州灘を遙かに望みながら古式神酒と旬の鰹の刺身を戴きご神恩に感謝いたしました。

毎月六日の本宮山月並祭にはごなたでも参列いただけますので、是非ご登拝下さいませようご案内申し上げます。



本宮山青葉祭の玉串の拝礼（5月6日）



御田植祭にて旭が丘中学校生徒によるご奉仕（平成25年6月2日）



一宮さくら祭りにて「替田華」の華やかなパフォーマンス（4月6日）

神間八千代氏土地浄財奉納報告祭

神間家は代々当社の社家として神事のご奉仕をされておられた家柄です。このたび、神間八千代氏より境内地に近い森町一宮宮ノ谷地区と森町橘地区に所有する山林一八四五坪と浄財をご奉納いただきました。

一月二十日に手続きが完了し、四月七日に土地・浄財奉納報告祭を斎行いたしました。

神間様のこのたびのご奉納に感謝するとともに新たな社有地を末永く守つてまいる所存です。



ご奉納の一宮宮ノ谷地区の山林付近

敬神婦人会会長 小池まさ子氏退任

去る三月三十一日、当社敬神婦人会の第五十七回総会が開催され、小池まさ子会長退任に伴い感謝状の贈呈が行われました。

小池まさ子様は、平成七年の会長就任より本年までの十期二十年と大変長い間、敬神婦人会の発展はもとより小國大神様のご神徳の宣揚に多大なご尽力を賜りました。その功績を讃え感謝の意を表し、贈呈されたものです。

また、四月十八日に斎行いたしました例祭の直会会場においても、宮司より感謝状の贈呈が行われ、長年のご奉仕に感謝を申し上げます。

小池まさ子様には、今後も敬神婦人会顧問としてご奉仕いただけるのとこのことで、お体には十分ご留意いただき、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



例祭にて感謝状の贈呈（4月18日）

遠州森町スマートIC開通式

三月二十九日、森町長村松藤雄様を始め関係者のご参列の元、厳粛に開通式が執り行われました。

引き続き記念式典では神社本庁長老・元衆議院議員議長・全国道路利用者会議会長の綿貫民輔様を始め静岡県知事川勝平太様・森町長村松藤雄様・当社宮司ほか多数の来賓や関係者が列席し、盛大裡に開催されました。

この新しいインターチェンジから当社への所要時間が約七分となり、従来より大幅に時間短縮されました。大型バス等全長十二m以下でETC車載器を付けた車両であれば、上下線全方向に終日利用することが出来ますので、ご参拝の折りには是非、ご活用下さい。



遠州森町スマートIC開通式（3月29日）

第三回神社検定のご案内

神社検定は平成二十四年から全国で実施され今年で第三回目を迎えます。当社では静岡県の試験会場として、本年は六月二十九日(日)に実施されます。

この検定は神社が好きな方や、日本文化をもっと知りたい方のための検定です。すでに全国で一万人以上の方々が受験されています。難易度別に一級・二級・三級と分かれており、それぞれの試験にはテーマごとに設問が置かれています。

生涯学習のテーマにしたい人、ガイドに活用したい人、蘊蓄(うんちく)を語りたい人も神社検定に挑戦することで、これまで身近で当たり前すぎて知らなかった日本文化が、きっと見えるはずですよ。

詳しくは神社検定公式サイトにてご確認ください。
公式サイト jinjakentei.jp



試験会場の研修室

花菖蒲の開花

当社門前の「小園ことまち横丁」西側にあります一宮花菖蒲園が五月二十四日より開園いたしました。昨年初冬には園内の一部が猪による被害をうけましたが、春先より全園で新芽がすくすくと伸び始め順調に開花いたしました。田により多少花のばらつきがありますが開花時期に合わせて早生・中生・晩生の品種が六月中旬まで新緑の森を背景に色とりどりに咲き誇ります。また、園内では開園期間中に花菖蒲の株分け販売もしておりますので係員にお申し出ください。



花菖蒲の開花（平成25年6月20日）

ご参拝後は、一宮花菖蒲園にて初夏の彩りをお楽しみください。

安産成就祈願のご案内

「命を育む」結婚をして子供を授かることは、いつの世も変わることはない神様からの賜物です。子宝に恵まれることは親になる喜びであり、命の継承でもあります。

古くから安産祈願は「戌の日」にされると良いといわれています。しかしながら、母体の体調が良い日にお受けになることが何よりです。

赤ちゃんはお母さんのお腹にいて、沢山の愛情を受けながら誕生する日をお待ちしています。

当社では母子共に健やかなる出産を願い安産成就のご祈禱を毎日ご奉仕しております。腹帯をお持ちいただければご神前にてお祓いをいたします。また、ご祈禱後は安産成就の御神札とお守りを授与いたします。



安産成就祈願を受けられたご夫婦（5月3日）

斎庭の草花①

— シソバツナミ —

当社は四季折々に自然を楽しんでいただける豊かな杜に生まれ、また普段何気なく見ている境内には多くの草花が生きついでています。

本号よりシリーズでご紹介する御神域に生きづく草花の写真の数々は崇敬者でおられる袋井市在住の山崎克巳氏の奉納写真をもとに掲載いたします。

シソバツナミソウ（紫蘇葉立浪草）

花 期 五月～六月 草丈 五cm～十五cm
生 育 地 山地・亜高山・川岸・分布・本州・四国・九州

シソバツナミソウは半日影の林縁などに生える多年草です。特徴は茎に短い上向きの毛が生えることです。茎の葉が上部にいくに従って小さくなるなどがポイントになります。

葉は卵形で葉脈上に紅紫褐色の斑が入るものが多いですが、ないものも有ります。また葉の裏面も紫褐色を帯びるものとそうでないものがあります。



紫蘇葉立浪草

古代の森シリーズ④1

— 御神籤 —

古代において、亀の甲羅を焼いてそのひび割れ方で神慮を伺う亀卜が行われており、また日本書紀には紙片で作った「籤」を使用した記述があり、これらがおみくじの由来とされています。現在のような、個人の運勢の吉凶を占うおみくじの形態が生まれたのは鎌倉時代と言われています。

おみくじには、神様からのお諭し（大御心）が記されており、その内容を今後の生活の指針として役立てることが大切です。

現在では、境内の木の枝におみくじを結ぶことがよくありますが、これは願い事が「結ばれますように」との思いからきているとも考えられます。

木の枝におみくじを結びつけることは木を傷める原因となりますので、指定の場所に結ぶようにしましょう。また、日々の指針として持ち帰ってもかまいません。



まつり歳時記

七月～十二月

七月 文月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 三十二日 境内地譲渡記念祭 (午前九時)
- 三十二日 愛宕神社例祭 (午前十時)

八月 葉月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十一日 甲子祭 (午前九時)

九月 長月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十三日 秋季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 二十五日 御柱祭 (午前九時)
- 二十五日 敬老祭安心祭 (午前十時半)

十月 神無月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 白鬚神社例祭 (午後二時)

- 十七日 神嘗祝祭神嘗祭遙拝式 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前十時)
- 十八日 福神像頒布式 (午前十時)
- 二十日 甲子祭 (午前九時)

十一月 霜月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 明治祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 七日 山神社例祭 (午前十時)
- 十五日 七五三祝祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭・稲祭 (午前九時)
- 十九日 疫神齋 (午後二時)
- 二十一日 地鎮祭 (午前九時)
- 二十三日 新嘗祭 (午前十時)
- 二十九日 紅葉祭山芋賞味会 (午前十一時)
- 三十日 もみじまつり (午前十時)

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十三日 鎮火祭 (午後三時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 十九日 甲子祭 (午前九時)
- 二十三日 天長祭 (午前九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

命名

平成二十六年三月一日
～平成二十六年四月三十日

- | | | | | | |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| 小杉 謙輔 | 磐田市 | 山本 焯 | 掛川市 | 川島 遥斗 | 袋井市 |
| 朝比奈 花 | 磐田市 | 木根 百香 | 袋井市 | 登坂 蕾希 | 森町 |
| 丹羽 琴音 | 袋井市 | 安藤 大心 | 森町 | 尾崎 文香 | 掛川市 |
| 北島 遼弥 | 浜松市 | 早野 桜生 | 浜松市 | 田邊 結大 | 浜松市 |
| 河口 蒼依 | 森町 | 奥宮 史恩 | 掛川市 | | |

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

夏越大祓のご案内

六月三十日午後三時より夏越（水無月）の大祓式を斎行いたします。

大祓式とは日常生活の中で知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを祓い、心身共に清らかな姿に立ち返るための神事です。古くは宮中の行事として平安時代から執り行われていました。

特に夏越大祓では自身の罪・穢れを身代わりとなる人形に移し、穢れを境内に設けられている茅の輪を「蘇民将来」と唱えながら八の字にくぐり、災厄・疫病除を願います。

人形は、社頭にてお頒けしておりますのでお申し込み下さい。また、授与所では「茅輪守」（一体六〇〇円）を授与しております。

当日は、どなたでもご参列が出来ますので、ご参列いただきますようご案内を申し上げます。

問い合わせ先 祭儀課大祓係



夏越の大祓式「茅の輪神事」（平成25年6月30日）



宮川上流にて一宮幼稚園児たちによるヤマメの放流 (4月16日)



静岡県の鳥「サンコウチョウ」
(平成25年5月27日撮影)



氏子青年会40周年記念「日月旗」の奉納



森中学校1年生のフィールドワーク (4月29日)

「小國の杜」点描



鳥居禮展を鑑賞された綿貫長老(中央) (3月29日)



勤学祭に参列する小中学生 (4月9日)

平成二十六年六月一日
 「玉垂」(たまだれ) 第四十一号
 題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七一〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三五九六一
 電話番号 〇五三八(八九)七三〇二
 FAX 〇五三八(八九)七三六七
 印刷 ㈲デザインオイス エムエスシー

○平成二十四年四月二十一日撮影
 新緑の季節となつて参りました。爽やかな風薫る宮川沿いを散歩すると明日への活力を与えてくれます。
 ○平成二十四年四月二十三日撮影
 キビタキはこの季節に飛来する渡り鳥です。鮮やかな黄色の胸毛が新緑に良く映えます。

表紙写真について

○六月には毎年、「日本野鳥の会・遠江」の会員の皆様が大バードウォッチングに来られます。お話を伺ったところ当社には約四十種類の野鳥の棲息が確認されているようですが、今後は御神域に生きつく鳥たちにもスポットを当ててお伝えします。

編集後記

○「玉垂」四十一号をお届けいたします。
 本年は境内の桜の開花に併せてするようにシヤガ、石楠花が同時進行で咲き始め、例年とは違う開花状況でした。花が一気に咲き揃ったこともあり例年よりも長く爽やかな新緑の季節が楽しめました。青々とした緑溢れるこの季節、皆様のご参拝を心よりお待ちしております。

巫女
 梶山 綾子
 ご指導・ご鞭撻の程
 宜しくお願いたします。

新職員紹介